# 溝と射場、矢場、アヅチ　　2021220　安岡

絵図上に射場（いば）、矢場、アヅチ（右写真　楕円形部分）と記載されている場所を弓場と最近呼称しています。絵図の射場の入口が溝に近過ぎ疑問を持っていました。溝の位置を確認したいと思っていました。

**・朱線の調査状況**

絵図に「朱引処溝」と書かれていますが、絵図の朱色が色褪せて見えません。朱線の可視化を文化財センターにお願いしました。赤外線・紫外線で色褪せた溝の線を確認出来ました。その箇所を加筆した絵図が右写真です。

西の溝（右写真の上側）は実際と同じ位置に線があり、消えていた北側にも回り込んでいる溝を検出しました。

射場があった東の溝調査結果（右写真下側）は驚きでした。現在の溝と一致した溝の線は道具蔵脇の溝のみでした。矢場の中に溝があるとか、現在石橋が跨ぐ南北の溝がないなど意外な発見がありました。

絵図は明治に作られましたので、絵図にそれ以前の状況が描かれています。

明治に今の東の塀はありません。南の塀は板塀から漆喰塀に明治に作り換えていますが、絵図には現在と同じような塀が描かれていますが、これらは又彦の制作計画です。

**・射場建立（弓場造成）**

朱線確認結果、藩政時代の弓場付近の溝は現在と大きく異なっていました。

道具蔵脇の溝は現在も、北から南に出て直角に曲がっています。これまで、道具蔵を建てるため溝を東側に曲げて蔵を建てる幅を確保したと考えていましたが、違っていました。

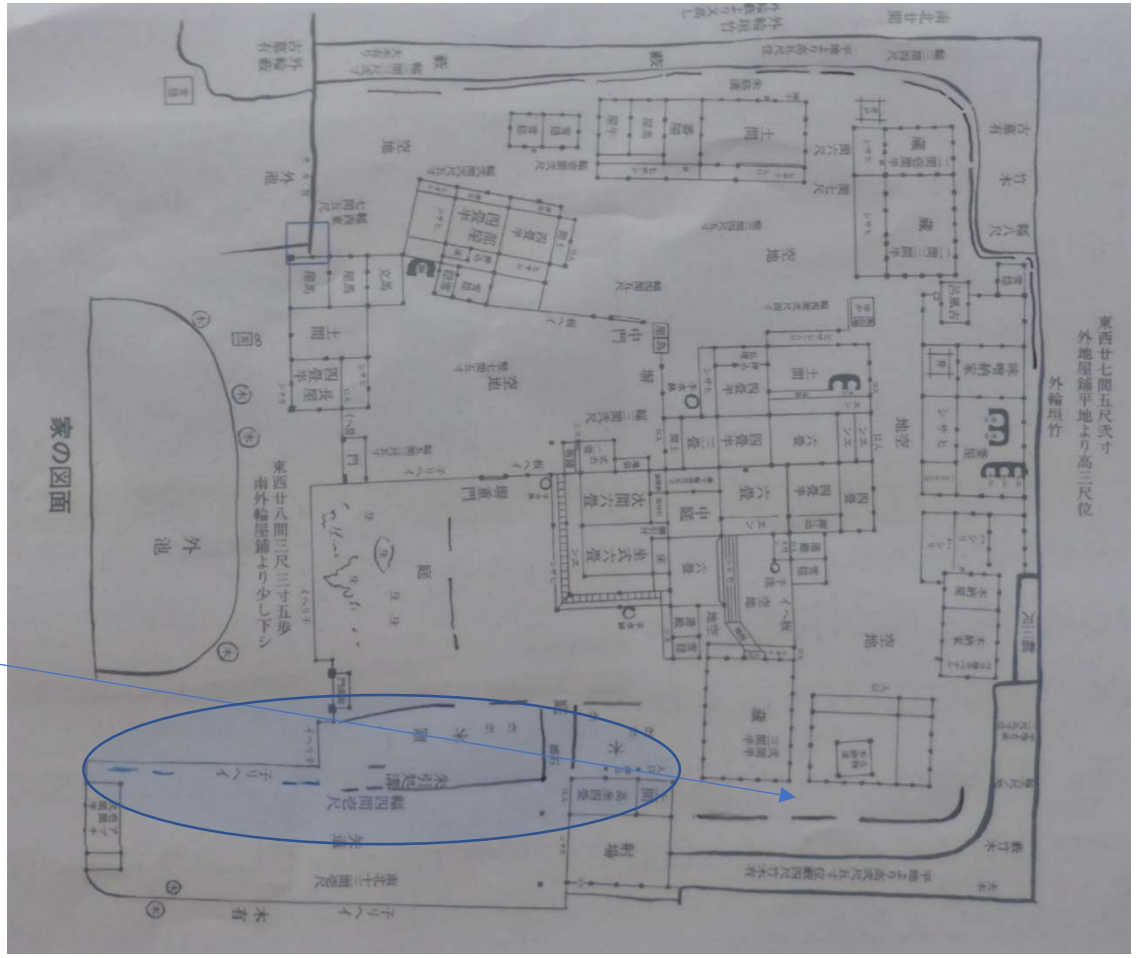
廣助の記録に本家の父に弓術を習い、文化五年弓術の師加藤に入門し文化十三年に「中傳相仰」とあります。それまでは本家（岡芝）の弓場を使用していたが、中傳を受けて自分の家に射場を建立（弓場造成）と推測されます。

次の文書に射場の工事記録と推定できる記載があります。

・天保二年（根居帳）、天保九年（襖の下張）、天保十一年（根居帳）

天保九年根居帳に矢立を作った記録もあります。天保十四年に息子の源右衛門が多数の知り合いを集め、市次（恒之進）、覚之助も参加した弓術の鍛錬をした記録があり、源右衛門は年に２１３日勤めたとあります。

文政十三年に番屋、本門、南面の板塀も造り終り建物建築一段落します。廣助は前述の記録から天保二年に射場建立、弓場造成したと推測します。



朱線の調査結果、道具蔵からの溝は西に曲げ絵図に書かれた「木」回り込んで、東西の溝が繋がり「矢場の溝」に近づいています。道具蔵脇の溝を南に延ばすと射場に当り「矢場の溝」に繋がります。最初に造られた溝は、道具蔵の脇から射場が作られた場所を通り「矢場の溝」と繋がっていたのでしょう。射場を作るため迂回溝を「木」を避けるように作ったのです。道具蔵の脇の溝は現在も少し曲がっていますが、今回判明した程の鋭角な回り込みではありません。明治に溝を造り直した時、変えたのでしょう。

迂回路で避けた「木」は大正六年の家族写真に映っています。溝を曲げる時に伐採されなかったので木は残ったと考えます。写真の背後の木の樹齢を寝松同じ程度(昭和４１年で樹齢２１０年)とするとこの木は明和四年に生まれとなります。

この写真に写っている木は迂回溝を作った天保二年には樹齢六十四年となります。その程度の太さであれば伐採可能と思いますが、木は残されました。この木はこれより以前にも伐採の危機がありました。天明三年に米蔵が溝に沿って建てられました。現在土が盛られた場所に建立とすると、この木の位置は蔵を建てるのに邪魔です。蔵は想定より南側か、現在の道具蔵の位置に建てられたか。

大正六年撮影の家族写真

**・藩政時代と現在の弓場**

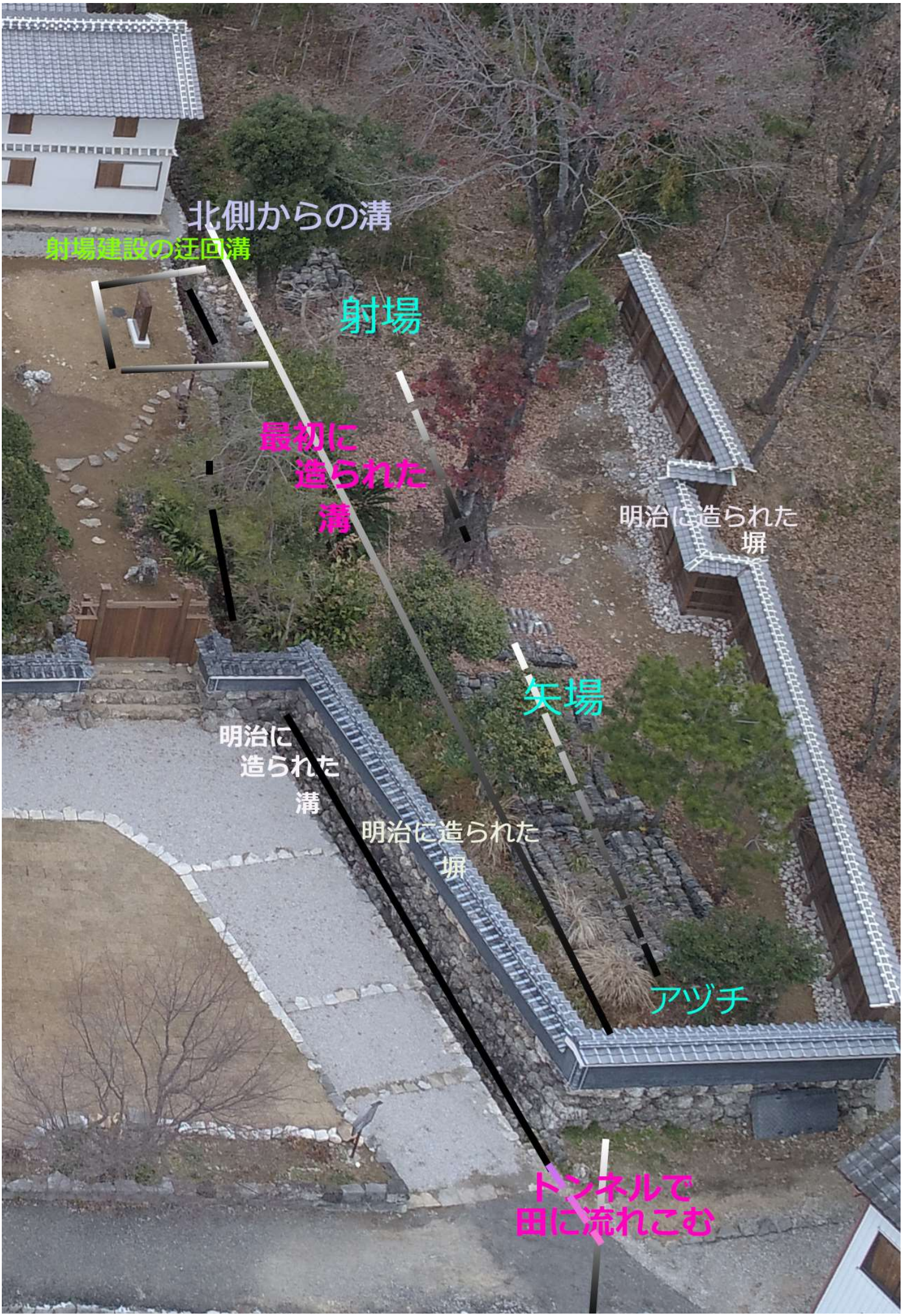
絵図の矢場に「幅四間壱尺」書かれています。基点を東の塀とすると終点が絵図に「殊引処溝」と書かれた付近になり、矢場幅は現在の塀から昔の溝までとなります。絵図を描いた頃、東の塀はなかったので、逆に塀を立てる位置を溝から決めたのでしょう。その朱線の先は水色の線で南の塀に当たる。現在の溝は塀に沿って道（赤線）をトンネルで潜り、前の田に流れ出ている。このトンネルは真っ直ぐでなく、中間で曲がっている。この曲がった箇所から北東方向に延ばすと、矢場の溝（水色線）が塀に当たる位置と合います。昔の溝はこのルートで田に水を流していたのです。水色の線は現在のトンネルに繋げる地下水路を描いているのだろう。

射場付近に描かれている石橋は、現在南北の溝を跨ぐ位置にあるが、射場建立の当時は、射場入口に向う東西を流れる溝を跨いだのだろう。絵図では射場の入口と溝の間が狭く入り難いと思ったが、この位置であれば出入りは問題がない。弓場は射場の建物とアヅチ（的を置く場所）が対峙し、矢場の両側には塀がなく、東側は雑木林に藪が繁茂し、西側に溝はあるが吹き曝しの場所と推定されます。

絵図は東側の塀は直線となっています。復原工事でも絵図通り直線に塀を施工としたが、藪を取除くと石グロがあり、その先の様子も墓地であったので、それを避けるようにして塀を建てた。絵図を描いた頃、同じよう藪に覆われていたのだろう。喜三郎夫婦の埋葬地と推定している宅地の北東の角に絵図では「古墓有」と違います。

座敷の庭にも、東西及び東の後の御成門に続く朱線（溝）があります。これは雨落ち水の排水溝であろう。今回の復原工事で作った砂利を被せた排水路（U字溝）のような役割を果たしていたのだろう。明治２０年過ぎに踏石を置き庭を整えた時に、座敷の溝は埋めたのだろう。そのため庭に水溜まりが出来ていたが、工事で土を換え水溜まりが出来なくなった。

復原工事が竣工したドローン撮影写真の弓場部分に前述調査結果を貼り付けたのを次に示します。


北側からの溝
射場建設の迂回溝
射場
最初に
造られた
溝
明治に造られた
塀
矢場
明治に
造られた
溝
明治に造られた
塀
アヅチ
トンネルで
田に流れこむ